

JVCKENWOOD

JVCケンウッド 決算説明資料

2021年3月期 第3四半期 (IFRS)

2021年1月29日



株式会社JVCケンウッド

事業内容

* 本資料の数値は全てIFRS（国際財務報告基準）となっています。

メディアサービス分野（MS）

■メディア事業

- ・ソリューション／ライフスタイル／ブランド
ビデオカメラ、ヘッドホン、プロジェクター、
ホームオーディオ、映像デバイス など

■エンタテインメント事業

- コンテンツ／受託ビジネス

パブリックサービス分野（PS）

■無線システム事業

- 業務用無線、アマチュア無線、
無線システム機器 など

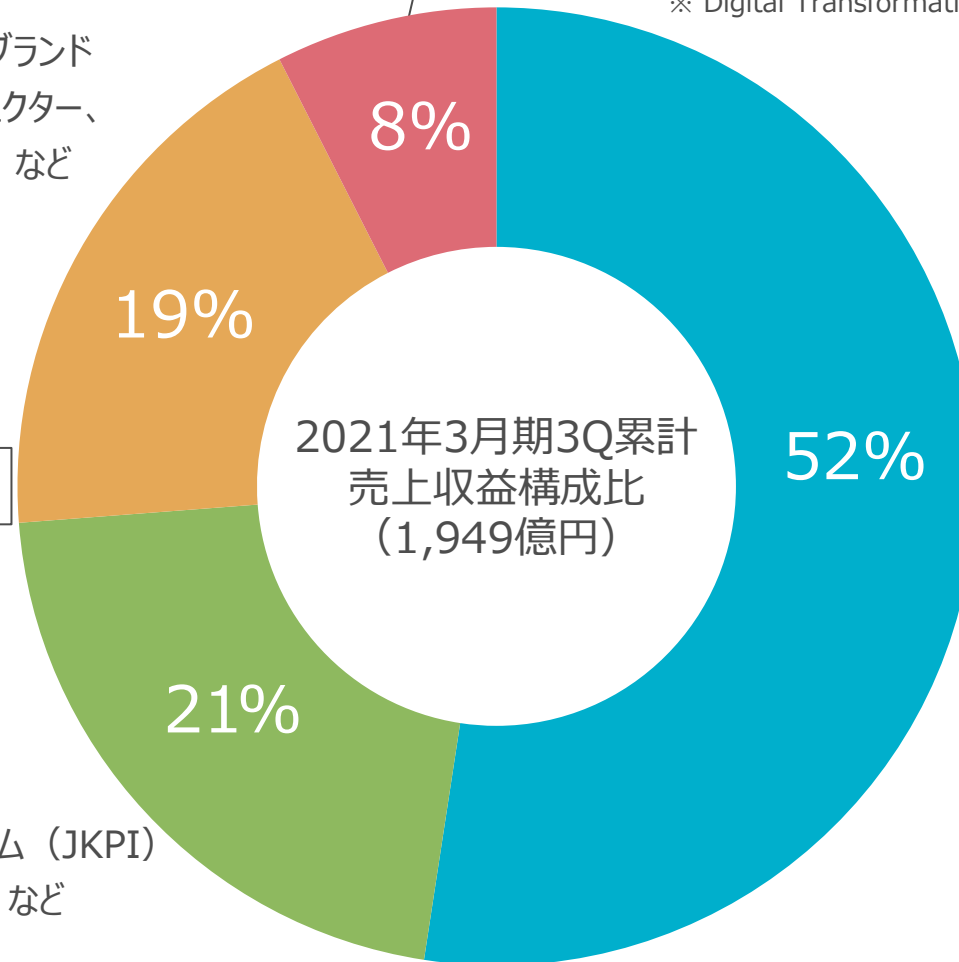
■業務用システム事業

- ・JVCケンウッド・公共産業システム（JKPI）
監視カメラ、業務用放送機器 など
- ・ヘルスケア領域
医用画像表示用モニター、エクソソーム解析システム、
ゲイズファインダー など

その他

■DX※ビジネス など

※ Digital Transformation



オートモーティブ分野（AM）

■アフターマーケット事業

- カーナビゲーション
カーオーディオ
ディスプレイオーディオ
ドライブレコーダー など

■OEM事業

- カーナビゲーション
ディスプレイオーディオ
ドライブレコーダー
車載用カメラ
車載用CD／DVDメカ
車載用光ピックアップ
車載用スピーカー
車載用アンテナ
車載用アンプ など

1. 2021年3月期 第3四半期 決算概況

2. 2021年3月期 通期業績予想

3. トピックス

1. 2021年3月期 第3四半期 決算概況

2. 2021年3月期 通期業績予想

3. トピックス

2021年3月期3Q累計決算ハイライト

- COVID-19^{※1}の影響により3Q累計では減収減益になったものの、3Qの大幅増益により、コア営業利益以下の全ての段階損益で黒字を達成

※1 新型コロナウイルス感染症

(億円)

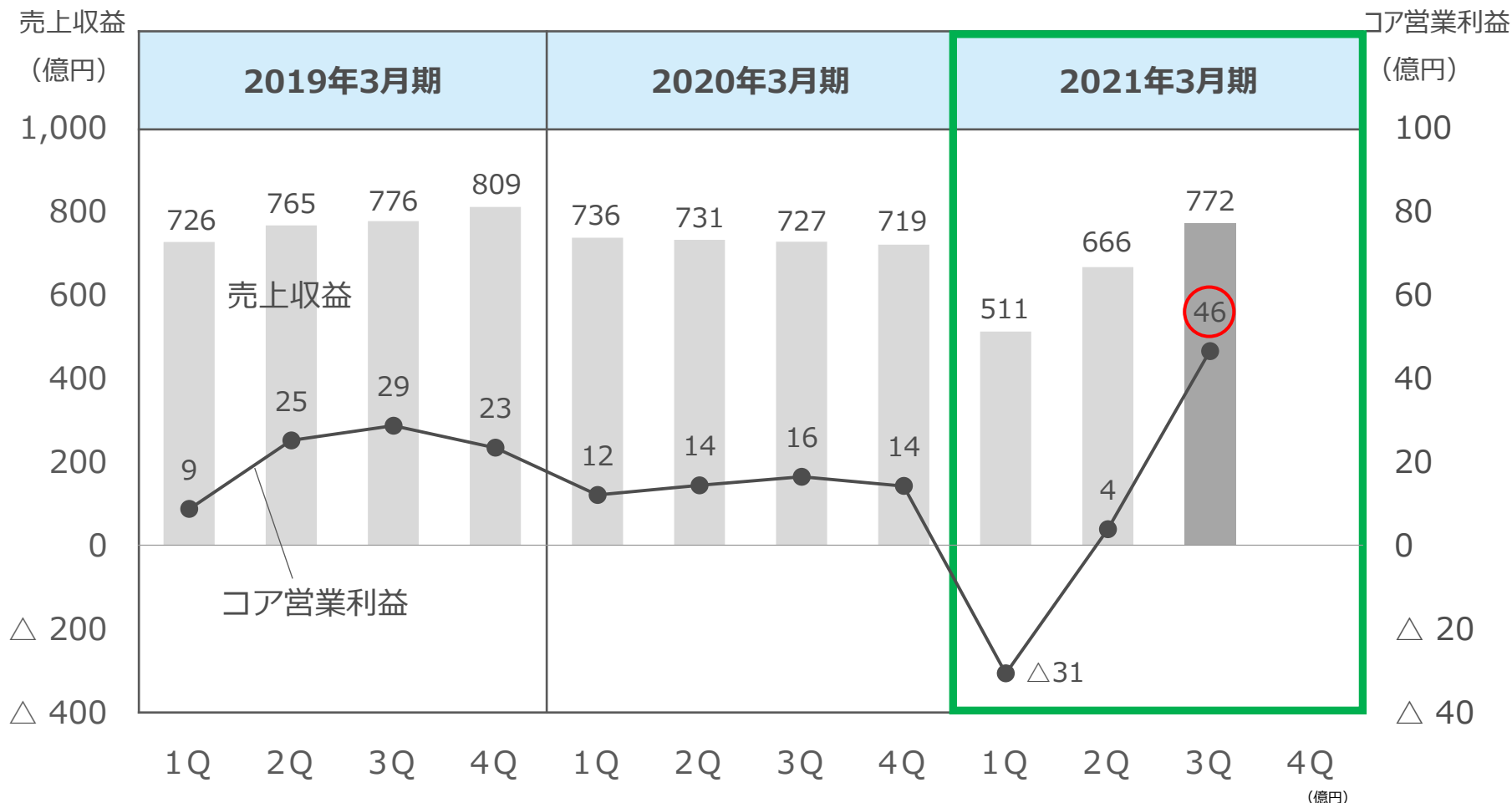
	'20/3期3Q累計		'21/3期3Q累計		
		構成比 (%)		構成比 (%)	前期差
売上収益	2,194	100.0	1,949	100.0	△ 245
売上原価	1,603	73.1	1,435	73.6	△ 169
売上総利益	590	26.9	514	26.4	△ 76
コア営業利益 ^{※2}	43	1.9	20	1.0	△ 23
営業利益	42	1.9	21	1.1	△ 21
税引前利益	35	1.6	20	1.0	△ 16
親会社の所有者に帰属する四半期利益	17	0.8	5	0.3	△ 12

※2 営業利益から、その他の収益、その他の費用、為替差損益など、主に一時的に発生する要因を控除したもの

		'20/3期					'21/3期				
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
損益為替レート	1米ドル	110円	107円	109円	109円	109円	108円	106円	105円	—	—
	1ユーロ	124円	119円	120円	120円	121円	119円	124円	125円	—	—

全社 四半期別実績推移

■ 3Qは市場回復・体質改善効果などにより全分野で黒字となり、6四半期ぶりに増収増益に転換



	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上収益	1,491	1,585	1,467	1,446	1,177	-
コア営業利益	34	52	26	31	△27	-

CEM※プロジェクトの進捗および事業体質強化の推進

※CEM = COVID-19 Emergency Measure
(新型コロナウイルス感染症 緊急対策)

CEMプロジェクト

売上下限リスクを想定した
緊急対策の推進

- 3Q累計も削減目標を概ねクリア
→4Qも活動継続
- テレワーク推進などの働き方改革
により時間外費用削減
→制度化により来期以降の
効果継続を図る

事業体質の強化

After COVID-19の
事業収益基盤強化への
布石を打つ

3Q累計実績

4Q~

設備投資抑制
約3割



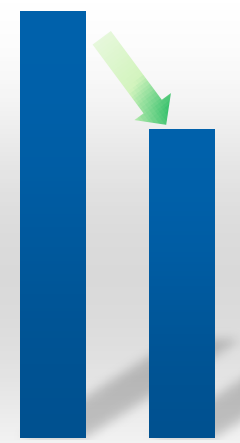
コロナ前
計画 3Q累計
実績

時間外費用削減
約5割以上



コロナ前
計画 3Q累計
実績

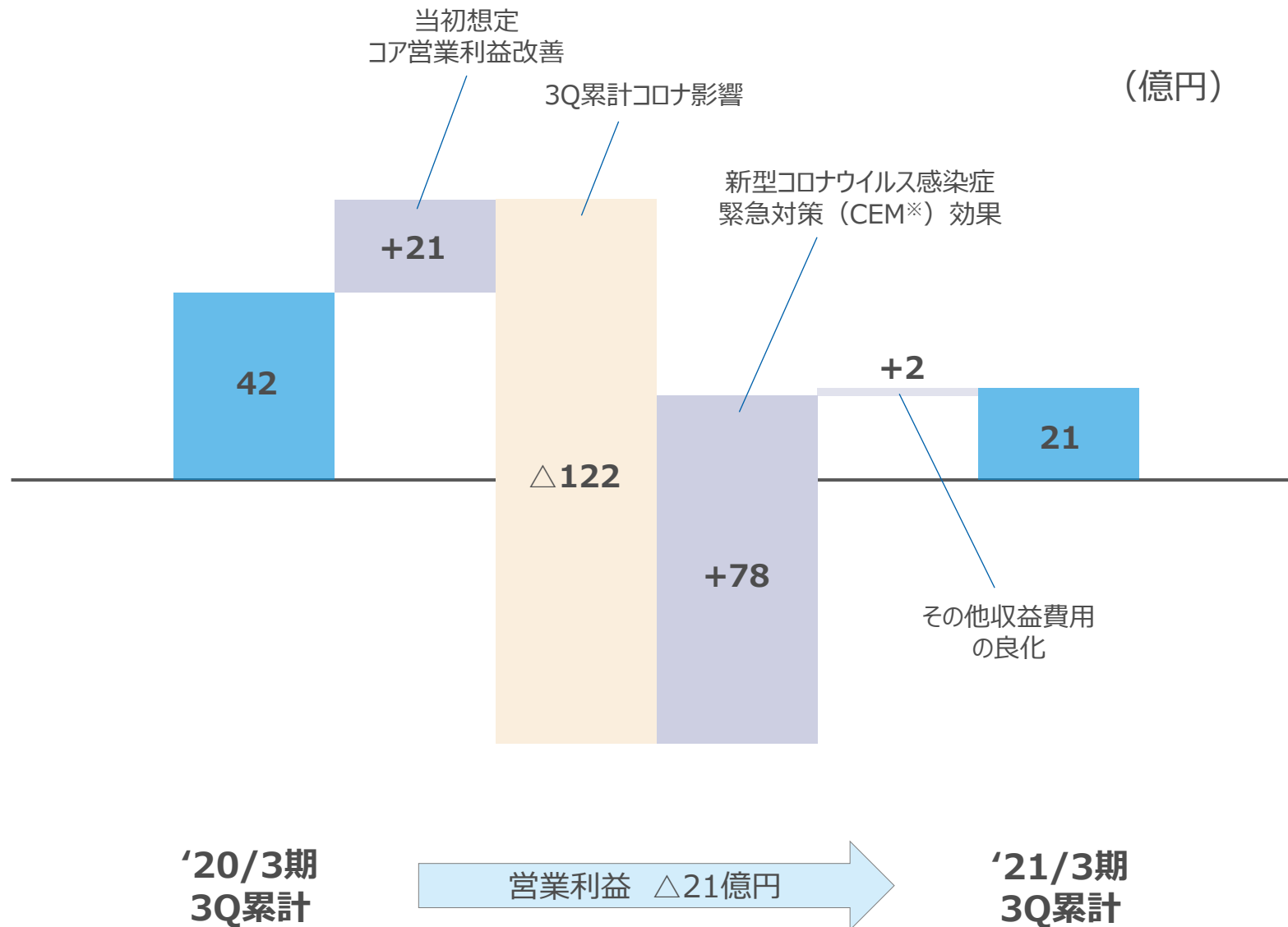
一般経費削減
約3割



コロナ前
計画 3Q累計
実績

モノづくり改革からの経営改革を全社横断的活動
として継続し、経営基盤である現場組織の課題解決能力
向上に向けたマネジメント改革プランを実行

2021年3月期3Q累計決算 営業利益増減（要因別）



※ CEM…COVID-19 Emergency Measure

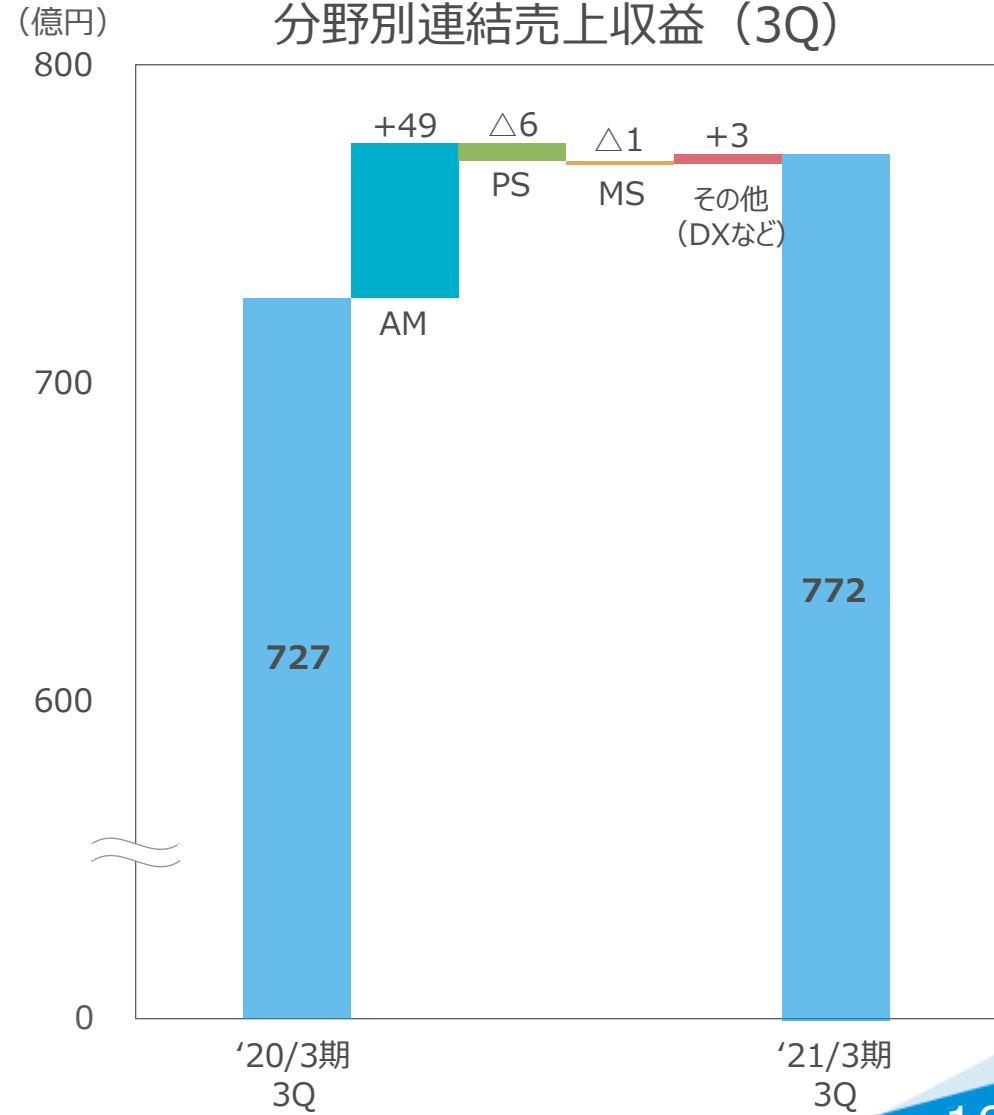
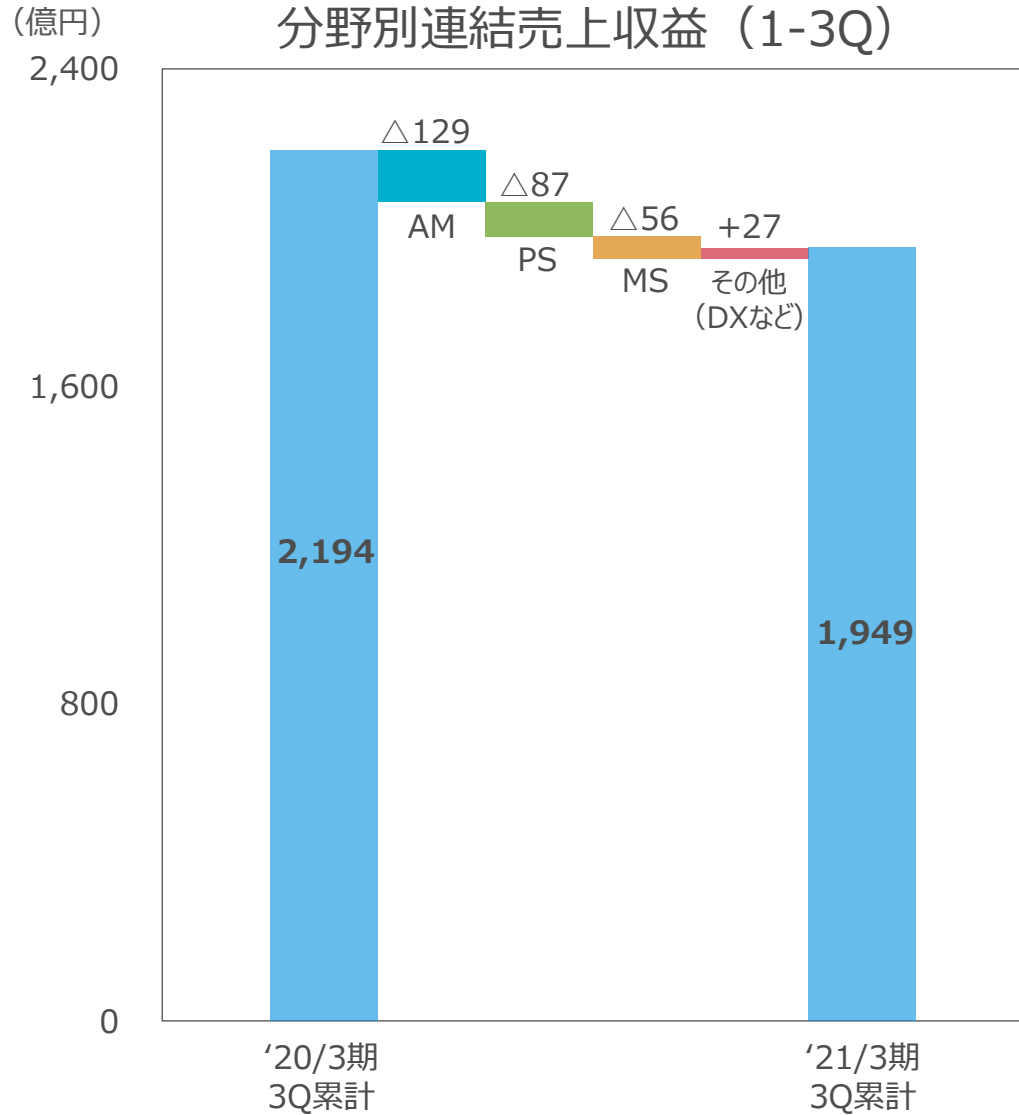
2021年3月期3Q累計決算 分野別の状況

(億円)

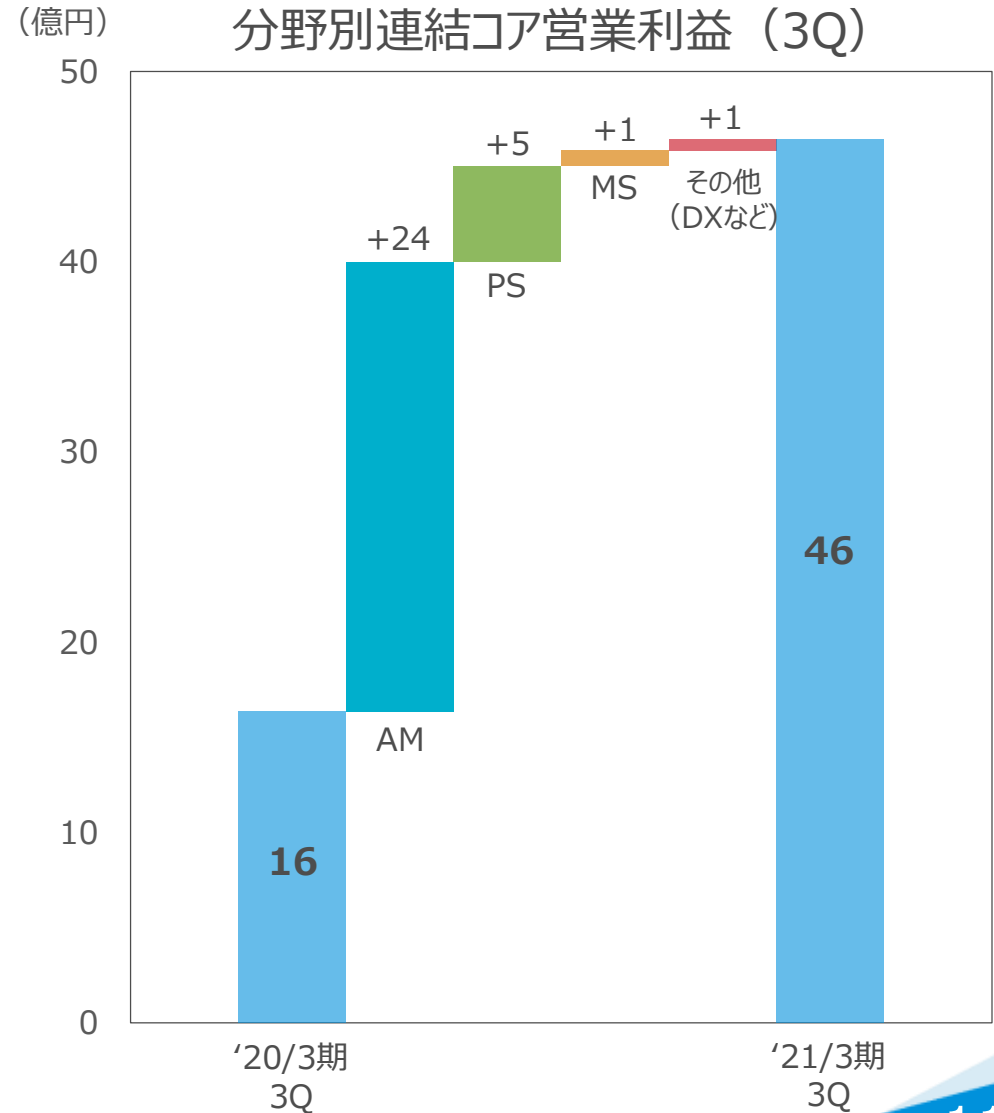
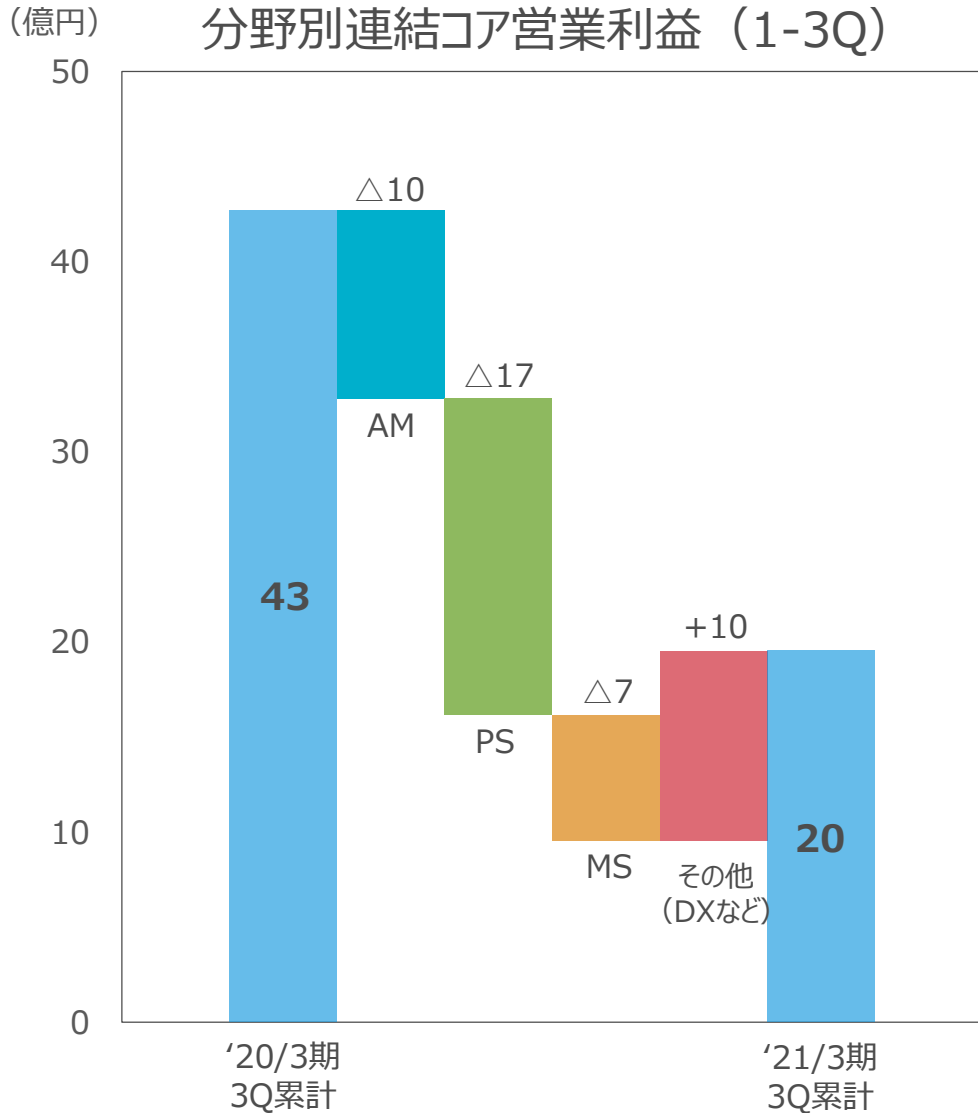
		'20/3期	'21/3期	増減	前期 増減率	要因
		3Q累計	3Q累計			
AM	売上収益	1,150	1,022	△ 129	-11.2%	* アフターマーケットは、2Qに続き国内ナビ・ドライブレコーダー販売堅調、欧米の販売回復により3Q増収も、1Qのコロナ影響大きく3Q累計では前年並み OEMは、国内新車販売台数の回復により用品好調、欧州子会社の販売大幅回復により3Q増収も、1Qのコロナ影響大きく、3Q累計では減収 * アフターマーケット、OEMともに3Qは大幅増益。3Q累計ではアフターマーケット増益、OEM損失縮小
	コア 営業利益	21	11	△ 10	-47.6%	
PS	売上収益	503	416	△ 87	-17.3%	* 無線システムは、米国子会社の販売伸長、BI [※] 市場回復により3Q増収も、1Qのマレーシア工場閉鎖影響や、全世界で外出禁止令・販売店閉鎖の影響を受け、3Q累計では減収 業務用システムは、国内緊急事態宣言による設備投資減少影響の3Q継続などから減収 * 無線システムは、増収効果や事業体質強化活動の効果発現により3Q増益、3Q累計でも損失縮小。 業務用システムは、減収影響で減益
	コア 営業利益	7	△ 9	△ 17	-	
MS	売上収益	421	365	△ 56	-13.3%	* メディアは、テレワーク・巣ごもり需要増によるポータブル電源・ホームオーディオの販売増で3Q増収も、BtoB事業が市況悪化影響を受け、3Q累計では減収 エンタテインメントは、上期に続きイベント・ライブ中止など非音源ビジネス停滞の3Q継続などにより減収 * メディア、エンタテインメントとも減収影響から3Q累計で減益も、エンタテインメントは経費削減効果発現で3Qでは増益
	コア 営業利益	9	2	△ 7	-75.1%	
その他 DXなど	売上収益	119	146	+ 27	+22.7%	* DXビジネスは、テレマティクスソリューション関連販売の3Q好調維持で国内緊急事態宣言の影響あるも3Q累計で大幅増収 * コア営業利益も大幅増益
	コア 営業利益	6	16	+ 10	+169.7%	
合計	売上収益	2,194	1,949	△ 245	-11.2%	-
	コア 営業利益	43	20	△ 23	-54.3%	

※ ビジネスインダストリー

2021年3月期3Q累計決算 分野別連結売上収益

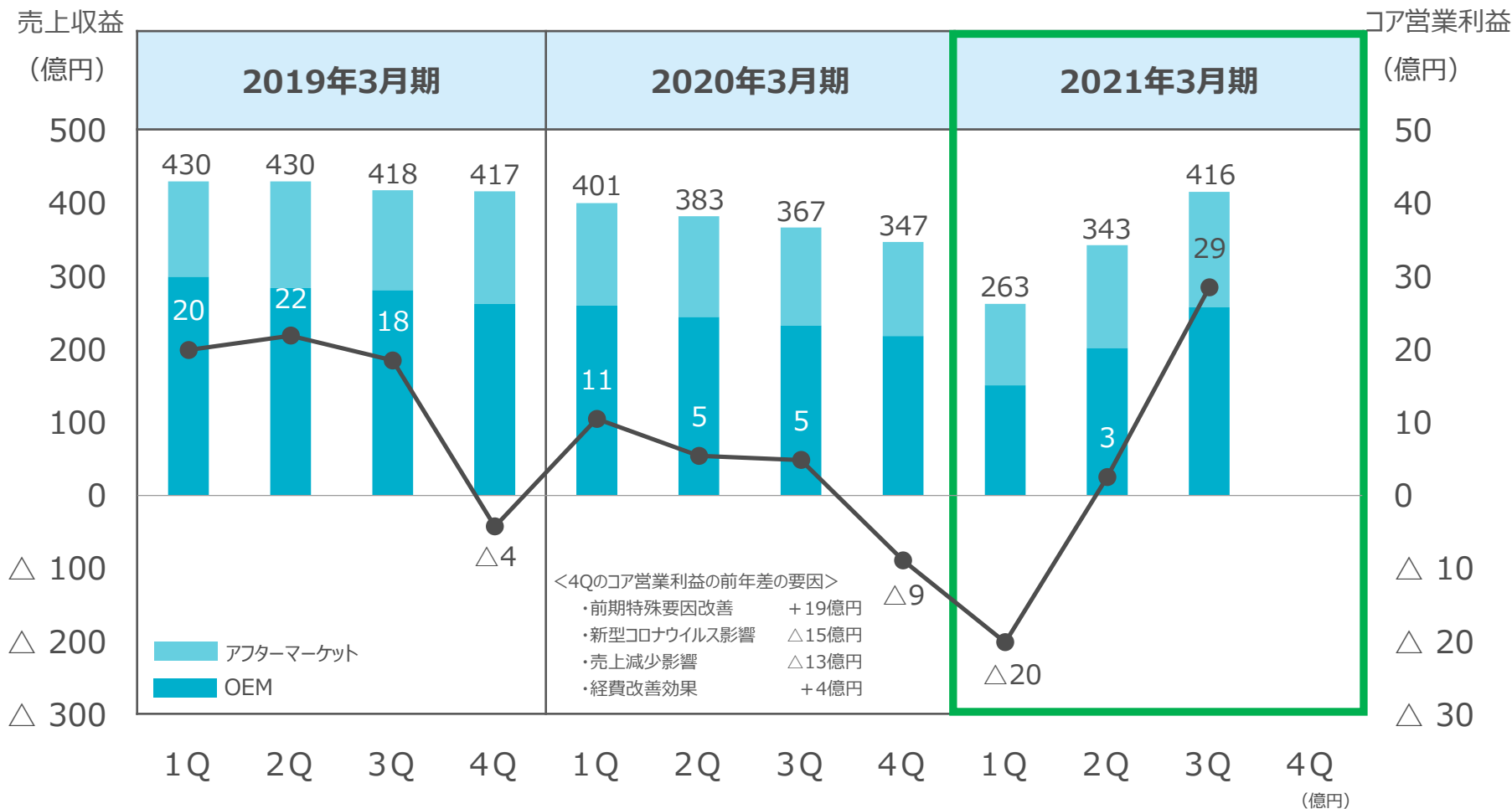


2021年3月期3Q累計決算 分野別連結コア営業利益



AM分野 四半期別実績推移

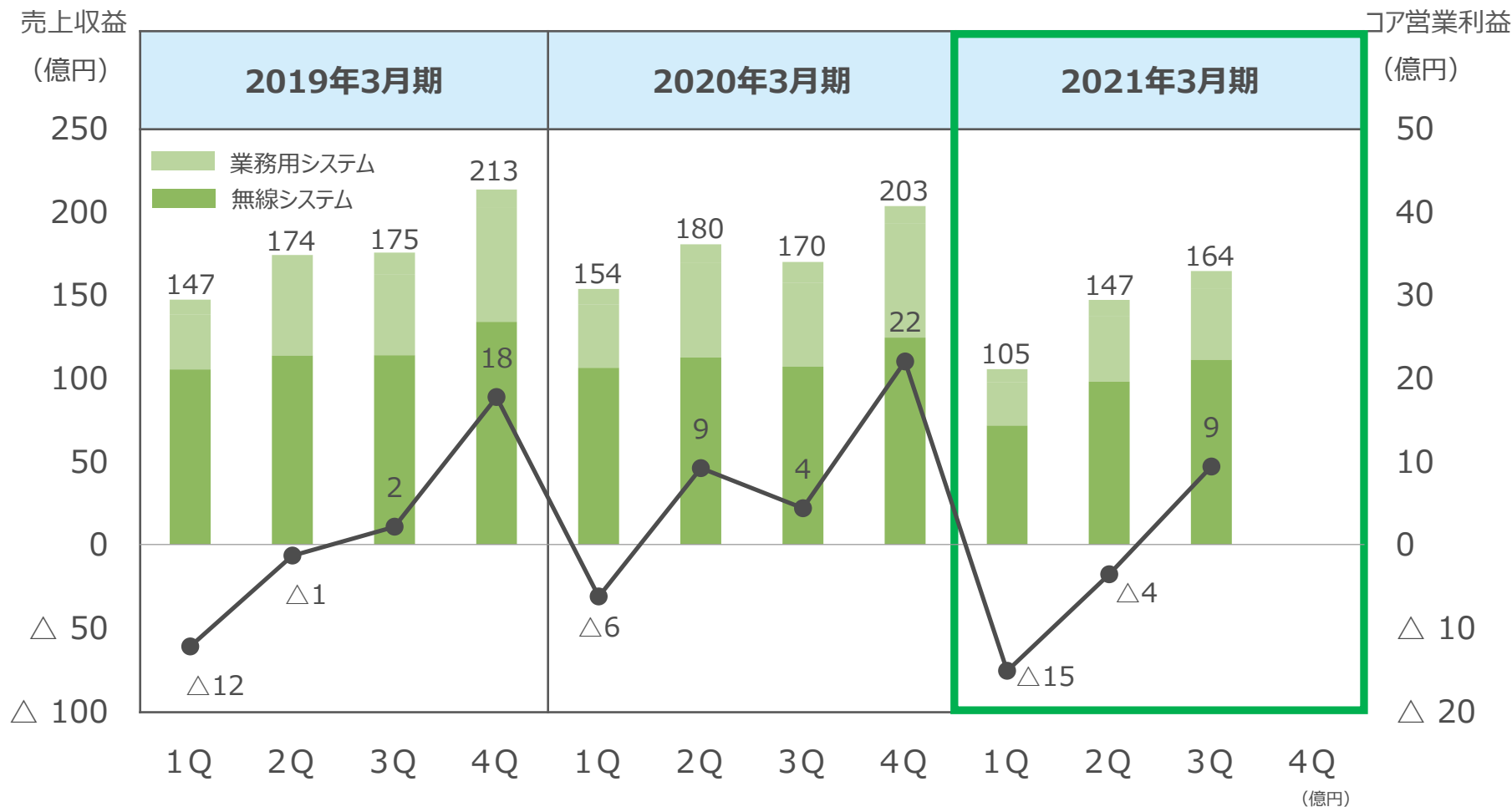
■ 3Qはアフター・OEMともに回復が鮮明となり増収、大幅（約488%）増益



	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上収益	861	835	783	715	606	-
コア営業利益	42	14	16	△4	△18	-

PS分野 四半期別実績推移

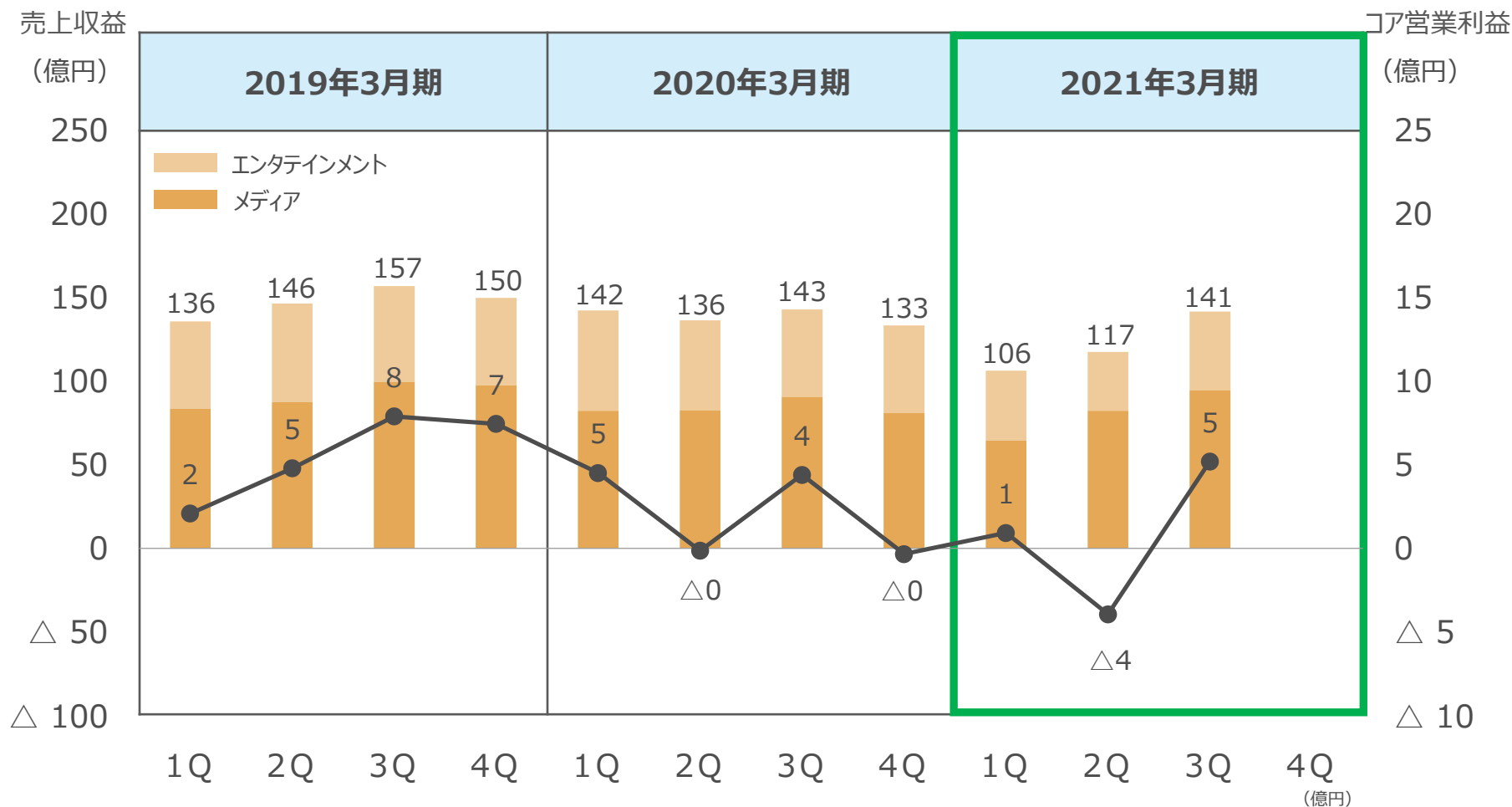
■ 3Qは無線システムが米国子会社の販売好調や事業体質改善効果により増益



	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上収益	321	389	334	373	252	—
コア営業利益	△14	20	3	26	△19	—

MS分野 四半期別実績推移

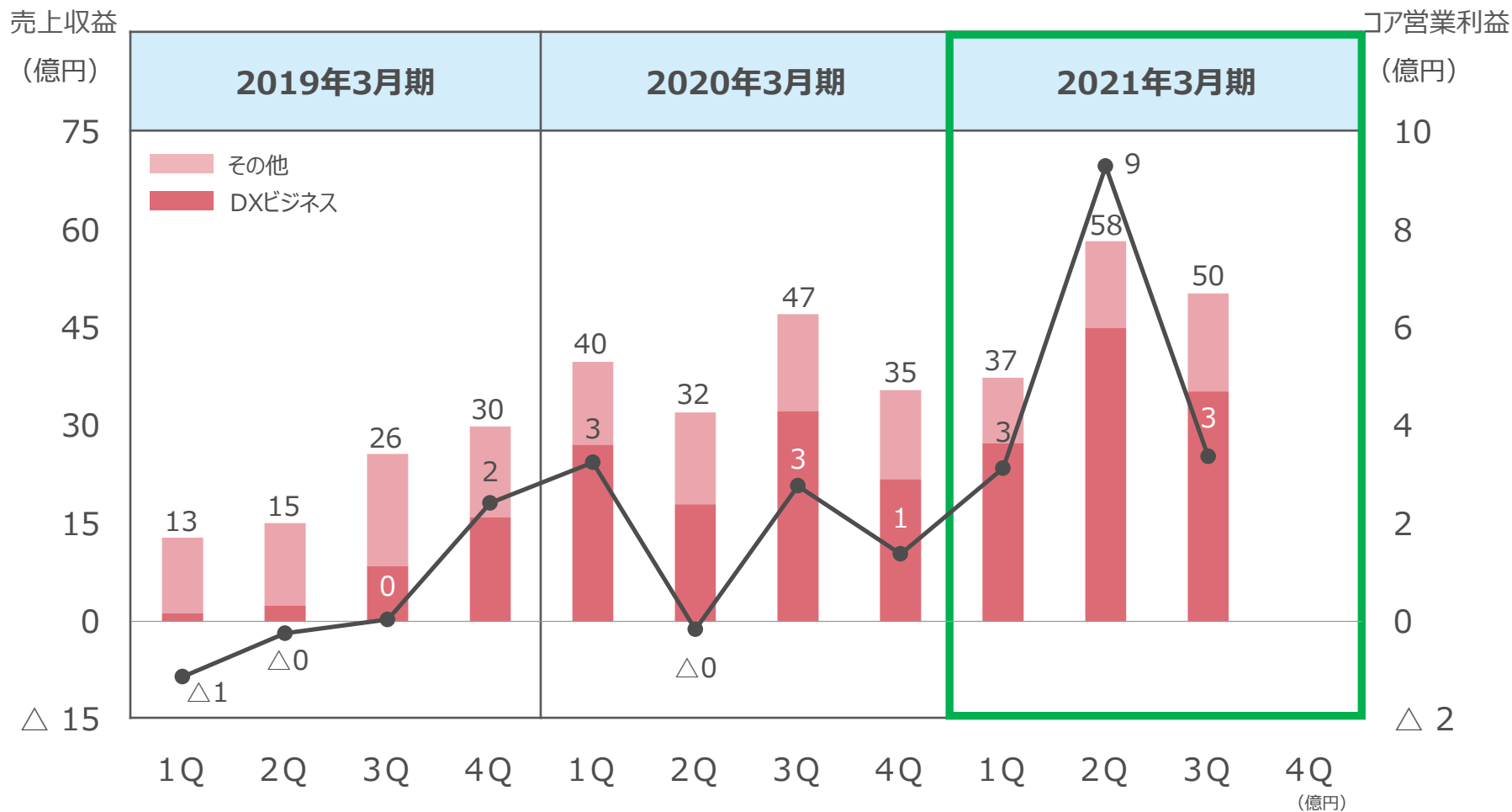
■ 3Qは巣ごもり需要を取り込みメディアが増収、エンタテインメントは経費削減効果で増益



	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上収益	282	306	278	276	223	—
コア営業利益	7	15	4	4	△ 3	—

その他分野 四半期別実績推移

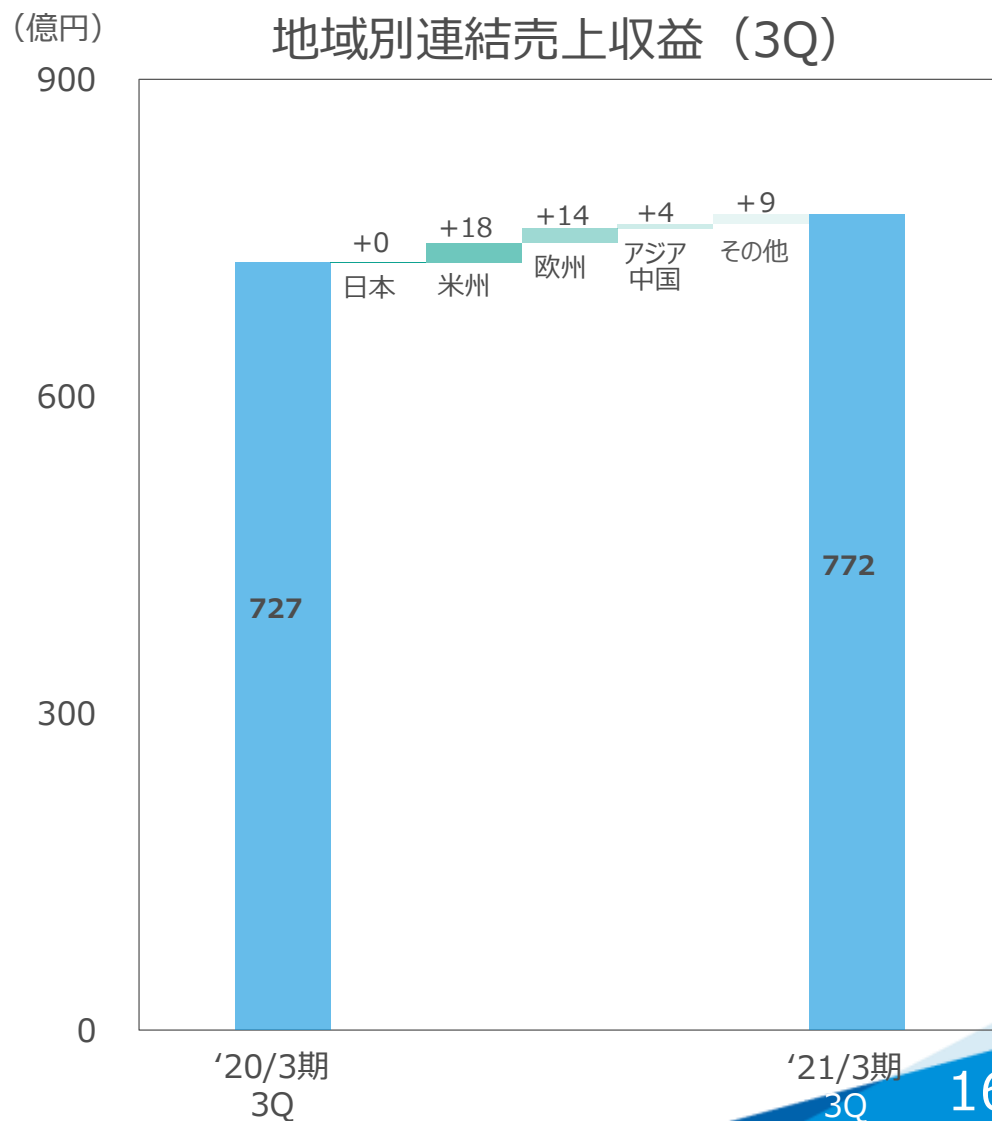
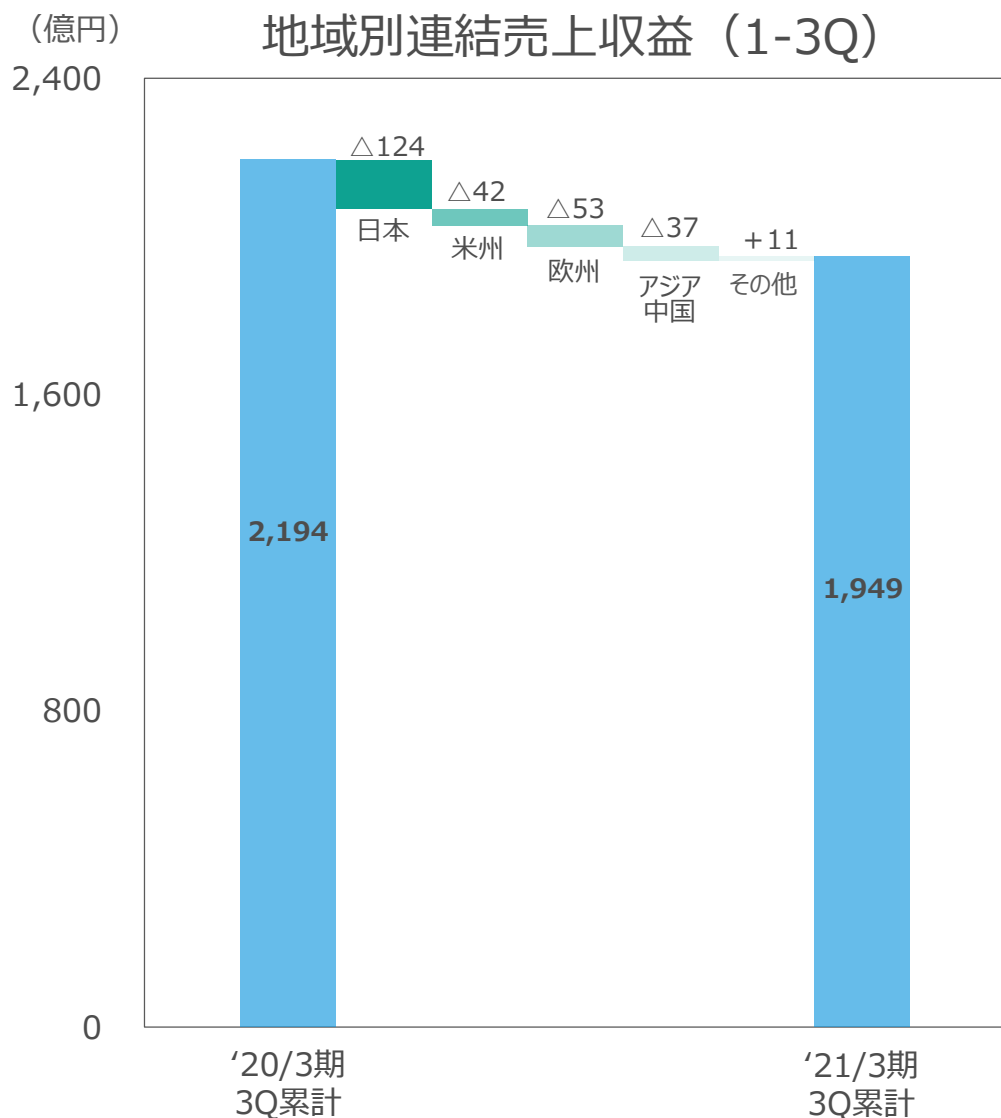
■ 3Qはテレマティクスの販売好調継続で増収も、開発加速にともないコア営業利益は前年並み



	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上収益	28	56	72	83	96	—
コア営業利益	△1	2	3	4	12	—

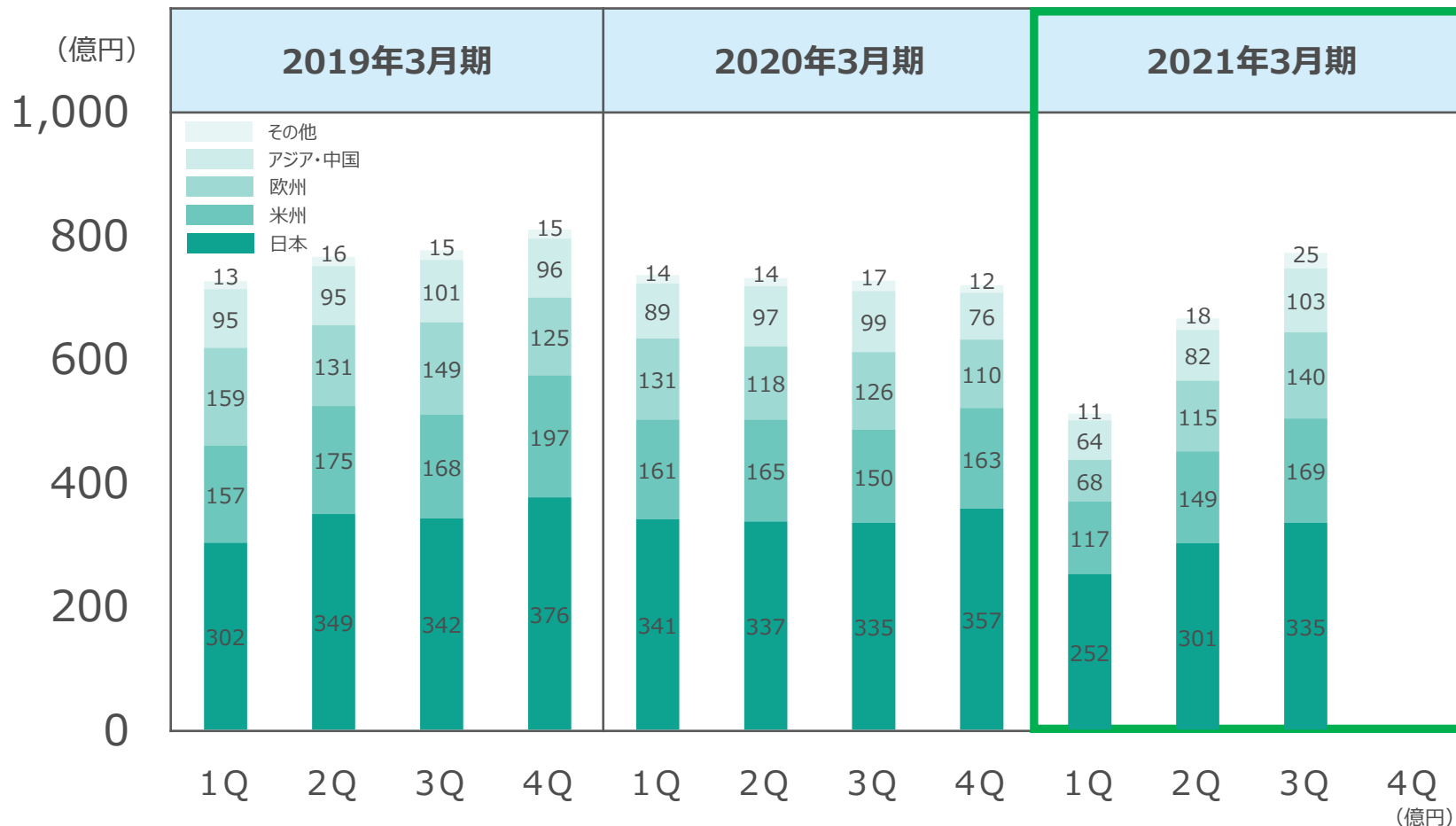
2021年3月期3Q累計決算 地域別連結売上収益

■ 3Q累計はその他を除き全地域で減収も、減収幅は縮小傾向。3Qは全地域で増収



地域別連結売上収益推移

■ 3Qは回復基調がさらに顕著となり、前年同期比で全地域が増収に



	上期	下期	上期	下期	上期	下期
日本	651	718	678	692	554	-
米州	332	366	326	314	266	-
欧州	290	274	249	236	182	-
アジア・中国	190	197	187	175	146	-
その他	28	30	27	29	30	-

2021年3月期3Q累計決算 連結損益 (要約)

- 営業利益は、主にコア営業利益の減少により減益
- 四半期利益は、営業利益の減少により減益となったものの、受取配当金の増加による金融収支等の改善や、税金費用の減少により減益幅が縮小し黒字達成

(億円)

	'20/3期3Q累計	'21/3期3Q累計	増減
コア営業利益 [※]	42.7	19.5	△ 23.2
その他の収益・費用、為替差損益等	△ 0.7	1.1	+ 1.7
営業利益	42.0	20.6	△ 21.5
金融収支他	△ 6.7	△ 0.9	+ 5.8
税引前利益	35.4	19.7	△ 15.6
法人所得税費用	14.7	10.0	△ 4.7
非支配持分	3.4	4.7	+ 1.3
親会社の所有者に帰属する四半期利益	17.2	5.0	△ 12.2

※ 営業利益から、その他の収益、その他の費用、為替差損益など、主に一時的に発生する要因を控除したもの

2021年3月期3Q累計決算 財政状態サマリー

- 20年12月末の現預金は553億円、有価証券と合わせ手元流動性は581億円を確保（手元流動性比率：2.3ヵ月）
- コミットメントラインは今期増加分100億円を含め約300億円の枠を未使用で保持

	'20/3期末	'21/3期3Q	増減
資産合計	2,497	2,617	+ 120
負債合計	1,897	2,003	+ 107
資本合計	600	613	+ 13
有利子負債	746	806	+ 60
ネットデット	347	254	△ 93
ネットD/Eレシオ（倍）	0.61	0.44	△ 0.17
親会社の所有者に帰属する持分	565	576	+ 11
親会社所有者帰属持分比率（%）	22.6	22.0	△ 0.6

2021年3月期3Q累計決算 キャッシュ・フローサマリー

- 営業キャッシュ・フローは、棚卸資産の減少や営業債務及びその他債務の増加による運転資金からの流入により、収入が増加
- 投資キャッシュ・フローは、有形固定資産及び無形資産の取得による支出が減少したことから、支出が減少。フリー・キャッシュ・フローは前年同期比大幅改善
- 財務キャッシュ・フローは、手元資金確保のための借入増により前年同期比増

(億円)

	'20/3期3Q累計	'21/3期3Q累計	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	171	229	+ 58
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 147	△ 89	+ 58
フリー・キャッシュ・フロー (営業活動によるキャッシュ・フロー + 投資活動によるキャッシュ・フロー)	25	140	+ 115
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 47	13	+ 60
合計	△ 23	152	+ 175

1. 2021年3月期 第3四半期 決算概況

2. 2021年3月期 通期業績予想

3. トピックス

2021年3月期 通期業績予想

- 3Q累計は、COVID-19の影響を大きく受け減収減益となるも、3QではAMの想定以上の伸長・回復や、全社CEMプロジェクトおよび事業体質強化活動の効果で想定を上回り、大幅増益
- 4Qは、自動車市場の回復を背景にAMで拡販に取り組むほか、各分野においてさらなる売上拡大と緊急対策活動を継続実施
- 一方で、COVID-19再拡大、半導体を中心とした部品の納入遅延などの懸念があり、先行きが不透明なことから、現時点では連結業績予想の修正は行わない

(億円)

	'20/3期 実績	'21/3期 予想	増減
売上収益	2,913	2,600	△ 313
営業利益	41	20	△ 21
税引前利益	29	9	△ 20
親会社の所有者に帰属する当期利益	10	△ 14	△ 24

		'20/3期実績	'21/3期想定
損益為替レート	1米ドル	109円	107円
	1ユーロ	121円	120円

4Q以降の懸念事項について

■ 新型コロナウイルス感染症の影響

- PSの業務用システム、MSのエンタテインメントは年度内は影響が続く見込み
- その他の事業は概ね回復してきたものの、4Qでの国内外における感染症再拡大の影響が懸念される

■ 取引先の火災による影響

- 今期については生産販売ともほぼ影響なし
- AMは既に代替部品への置換設計が完了し、来期も影響は発生しない
- PSの無線システムでは一部の商品が生産完了となり、来期に販売減の影響が発生する見込み

■ サプライチェーンの影響

- 3Qに入り物流の滞りや物流費の増加が発生し、4Qにも継続が懸念される
- 4Q以降半導体中心に部品の納入遅延などの懸念が生じている

1. 2021年3月期 第3四半期 決算概況

2. 2021年3月期 通期業績予想

3. トピックス



JVCケンウッドグループは、持続可能な開発目標（SDGs）達成に貢献するため、SDGsの全17ゴールのうち当社マテリアリティと特に関連が深い8ゴールを優先ゴールとして特定。

それぞれの事業活動を通じて目指す優先ゴールを各ページに記載しています。

トピックス With COVID-19に向けた商材

低濃度オゾン発生器



イオンと低濃度オゾンの作用により
ウイルス・除菌・消臭対策

抗菌・抗ウイルス トランシーバー



業界初※、抗菌・抗ウイルス加工を施した
安心・安全なトランシーバー

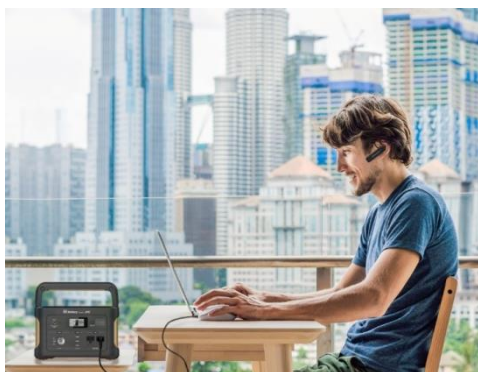
※2020年11月現在。当社調べ

ホームオーディオ



巣ごもり需要に対応し
手軽に高音質再生を実現

ワイヤレスイヤホン・ポータブル電源



オンライン会議や電源の確保など
テレワークでの活用で需要が増加

AI検温ステーション



検温誤差 $\pm 0.2^{\circ}\text{C}$ 、検出時間0.3秒で
測定できる非接触セルフ式検温端末

感染症対策用防水型キーボード・マウス

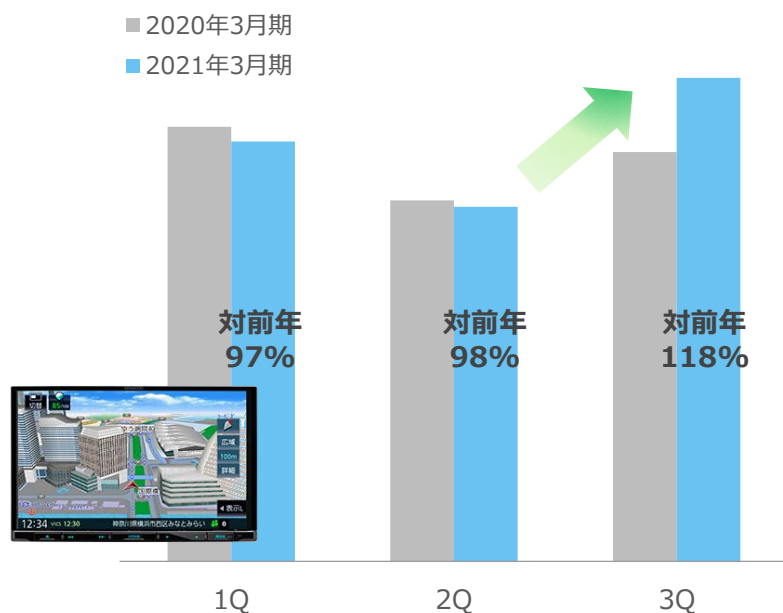


洗浄・消毒にも対応した
衛生的なデザインを採用

■ アフターマーケット

- 国内は好調に推移する彩速ナビのラインアップを拡充し、さらなるシェア拡大を見込む
- ドライブレコーダーは音声コマンド機能搭載モデルや特定販路向けなど、市場拡大が進む2カメラタイプのラインアップを拡充
- 海外は米州を中心にディスプレイオーディオの販売が2Qから引き続き好調に推移

カーナビゲーションの販売台数推移（国内）



ディスプレイオーディオ販売台数推移（米州）



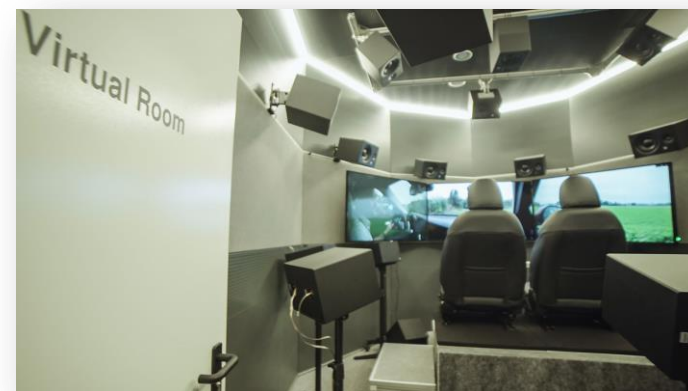
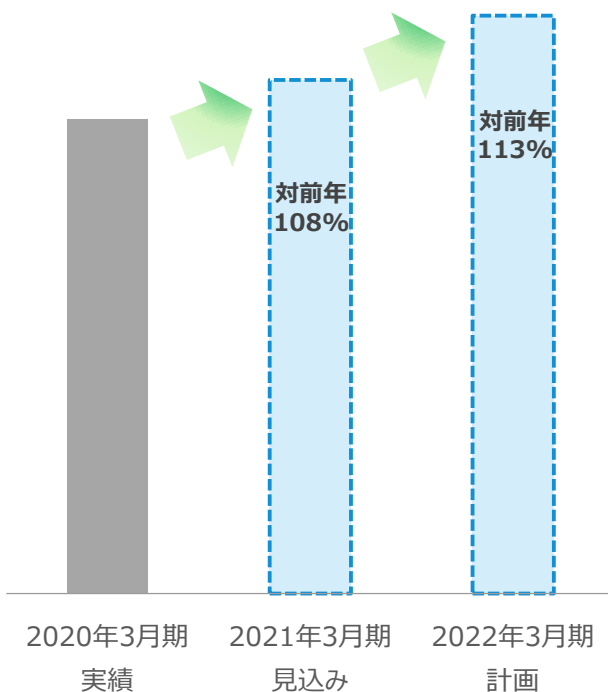
■ OEM - ASK Industries S.p.A.

- ▶ 伊子会社ASKが中国市場の急速な回復も貢献し堅調に推移、3Qは四半期として過去最高となる売上収益を達成
- ▶ 欧州市場で既存の中高級音響システムのシェアを維持しつつ、中国市場で多数の新規案件の受注獲得により、来期以降も安定した事業成長を見込む



ASK売上収益推移

ASKの主な顧客



車内音響・ノイズ疑似体験ルーム



ハイエンドサウンドソリューション

■ 車載用遠赤外線（FIR※）カメラシステムを開発

※ Far Infrared Rays（遠赤外線）

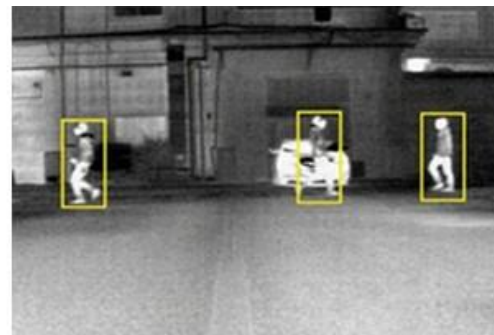
- ▶ 太陽光や街灯などの光源の有無に左右されることなく、夜間の撮影や画像認識が可能となる車載用FIRカメラシステムを新開発
- ▶ 夜間運転時の警告システムとしての活用や自動運転時の車載用カメラだけでなく、業務用車両への搭載や監視カメラなど、あらゆる分野に対して提案



新開発した車載用FIRカメラ



通行人が視認できないような夜道でも認識が可能



ヘッドライトによる逆光に埋もれてしまう人影も確認可能



■ 画像信号処理IP※1「IPSILOS（イプシロス）」 ※1 Intellectual Propertyの略

- 当社製品の高画質性能に寄与してきた独自の画像信号処理SoC※2をベースに、基本性能の強化・拡張と車載用途にも応用展開が可能となるよう改良を重ねた画像信号処理IPを新開発

※2 System-on-a-chipの略

- 当社が展開するさまざまな映像関連機器へ搭載するだけでなく、さまざまな市場で使用されている信号処理SoCを開発するメーカーなどへIPとして提供することも想定

	従来技術	新IP「IPSILOS」
HDR（High Dynamic Range） 逆光や夜間走行時の街灯、トンネルの出入り口など明暗差が激しい環境時におきる「白とび」や「黒つぶれ」を抑え明瞭な映像を実現。 ※画像はトンネル出口のもの		
画像強調補正 物体の境界の輝度成分の段差に対し、広範囲にわたってなだらかな輝度変化を持たせている。黒が引き締まって見える。		

■ 無線システム

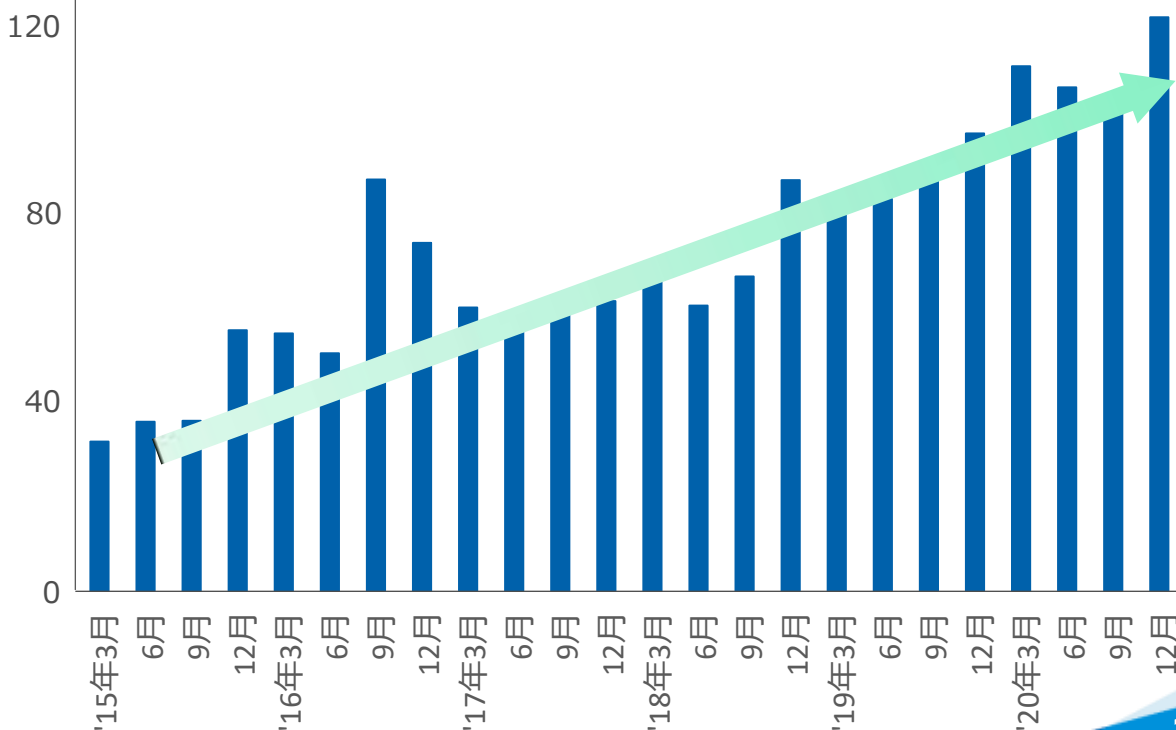
- ▶ 業界で初めて※本体に抗菌・抗ウイルス加工を施すことで安心な使用をサポートする特定小電力トランシーバー“DEMITOSS”の販売が好調に推移 ※ 2020年11月現在。当社調べ
- ▶ 来期以降に向けて、米国で引き続き堅調なパブリックセーフティ市場向け大型案件の受注残積み上げを継続的に推進



業界初となる本体に抗菌・抗ウイルス加工を施した特定小電力トランシーバー“DEMITOSS”

(百万 USD)

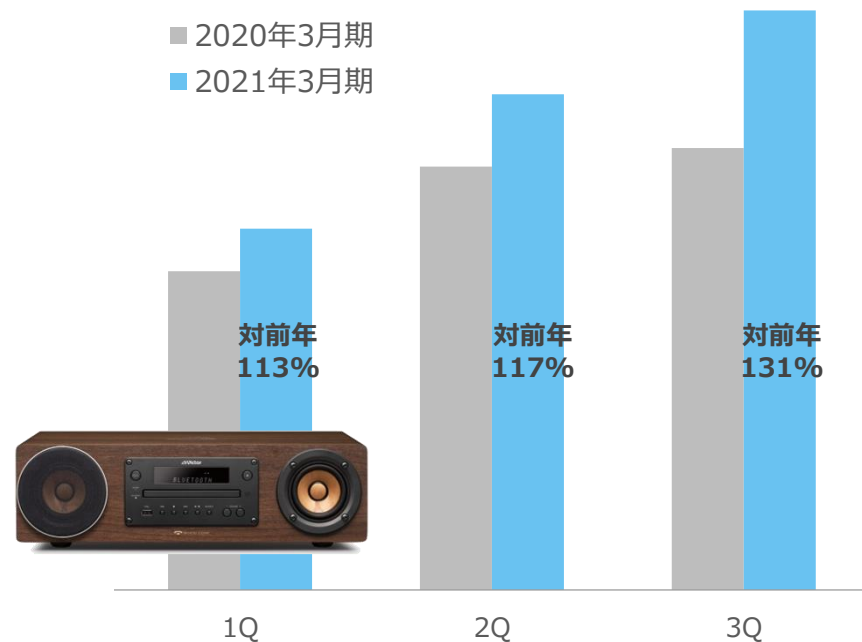
無線システム受注残推移



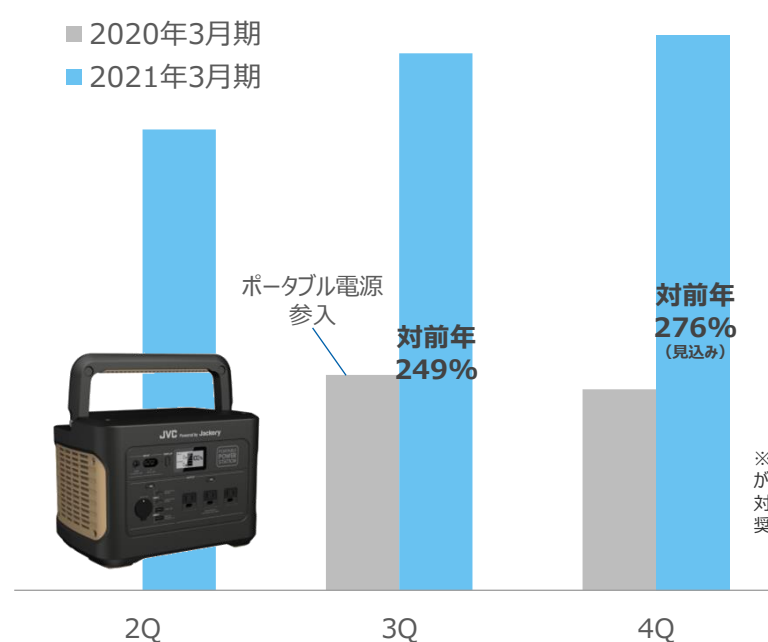
■ メディア事業

- ▶ COVID-19の影響による巣ごもり需要を取り込み、ウッドコーンオーディオの一体型オールインワンモデル「EX-D6」が大手通販サイトの主要ランキングで1位を獲得
- ▶ テレワークやアウトドアレジャー、非常時などの電源確保の需要拡大でポータブル電源が好調に推移。大容量モデルとソーラーパネルが「防災製品等推奨品※」に認定

ホームオーディオの販売金額推移（国内）



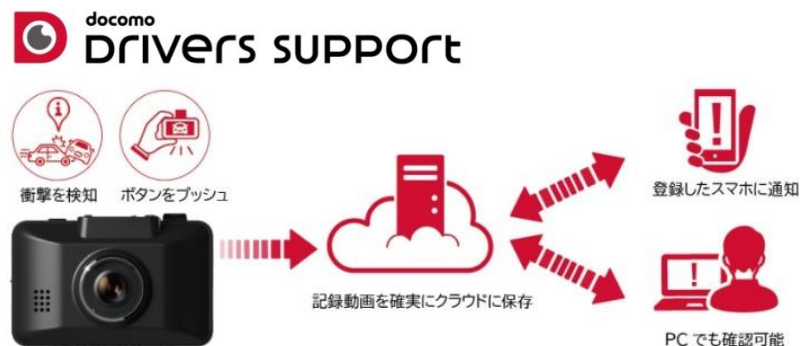
ポータブル電源の販売金額推移（国内）



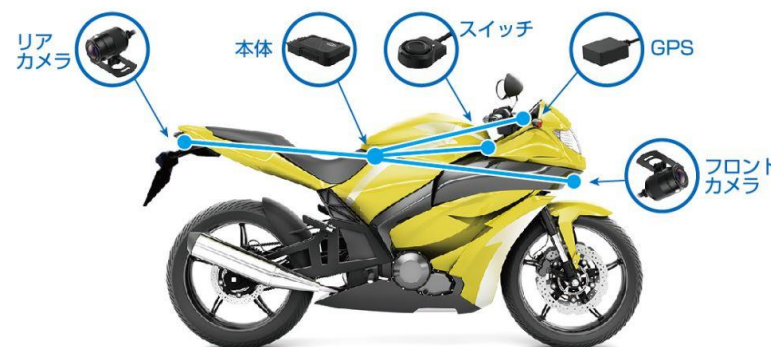
※一般社団法人防災安全協会が災害時に役立つ防災製品に対して推奨する「防災製品等推奨品」に認定



- 通信型ドライブレコーダーやエッジAIカメラなどを核に、パートナー連携をより深めハード+サービスソリューションを提供する“多様性あるエコシステム”の構築推進
 - NTTドコモが2020年11月から提供を開始した個人向けサービス「ドコモ ドライバースサポート」対応の通信型ドライブレコーダーを同社と共同で開発・販売
 - レッドバロンとあいおいニッセイ同和損保と共同で業界初となる保険連動対応バイク用ドライブレコーダーを開発し、2021年 3 月から提供開始
 - 通信型ドライブレコーダーを活用したIoT・AIベースのテレマティクスサービス構築を短期間 & 低コストで実現するSoftware Development Kit (SDK) の提供を開始



NTTドコモ「ドコモ ドライバースサポート」のイメージ



保険連動対応バイク用ドライブレコーダー

JVCKENWOOD

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらすおそれがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1) 主要市場（日本、米州、欧州およびアジアなど）の経済状況および製品需給の急激な変動、(2) 国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3) ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4) 資本市場における相場の大幅な変動、(5) 急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。